

Title	企業グループのマネジメント・コントロール-振替価格・業績評価の問題を中心に-
Sub Title	
Author	岸根正実(Kishine, Masami) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第405号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0405">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0405</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 岸 根 正 実 主査 伏 見 多美雄  
( 鐘淵化学工業株式会社 ) 副査 柴 田 典 男  
所属ゼミナール 伏 見 多美雄 研 青 井 倫 一

## 企業グループのマネジメント・コントロール —振替価格，業績評価の問題を中心に—

近年、「事業部と子会社を含めた企業グループのマネジメント」という課題に実務界の関心が高まってきた。それにもかかわらず、この問題についてのまとまった研究はごく乏しいように思われる。そこで本研究は、L社という特定の企業の事例分析を通じて、企業グループのマネジメント・コントロール上の問題点を把握し、その改善の方向を示すことを試みている。

論文の構成は、企業グループについての一般的考察を行った後、L社の事例を中心に、3つのステップ — (1)事例の提示 (2)事例のモデル化 (3)モデル化にもとづく事例の分析 — を踏んで議論を展開している。そして最後に、L社の子会社マネジメントの改善案の提示を行っている。

モデル化の部分では、子会社のタイプに応じて、違った形で目標斉合性が阻害されるという問題が起こることを示している。そして子会社のタイプごとに、振替価格、業績評価をどのようにすべきかについて論じている。事例分析では、L社の子会社マネジメントに共通する問題点を剔抉し、問題点の改善の方向として、(1)各子会社の位置づけ — コスト・センターか、プロフィット・センターか、成長型か、成熟型か — に見合った振替価格システムの設定、(2)多目標の業績評価尺度の設定、(3)企業グループの統轄機関の設置、の3つの改善案を提示している。

本研究は事例研究ではあるが、L社が日本の製造業に広くみられる特徴を有しているうえに、事例分析に際して、一旦モデル化の手続きを踏んでいるため、その結論は、日本の多くの企業にもあてはまると考える。